

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103069		
法人名	株式会社 ライフ敷島		
事業所名	グループホーム みのりの家 (1階)		
所在地	岐阜県岐阜市野一色6丁目10番26号		
自己評価作成日	平成28年9月1日	評価結果市町村受理日	平成29年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2170103069-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2170103069-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症の進行の緩和のため、毎日の歩行訓練や、第一興商さんのカラオケの実施、生け花教室等を、実施しています。また、希望者には、有料になりますが、くもん学習療法も実施しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、周辺に、田畑や公園もある静かな住宅街にあり、おしゃれな洋風の建物である。開設後12年を経ているが、福利厚生充実によって職員の離職が少なく、オープン当初からの職員も多い。代表者や看護師でもある管理者の元で、職員は利用者の暮らしに寄り添いながら、「ゆっくりと、いっしょに、たのしく」を基本理念とし、日々、支援に取り組んでいる。また、協力医による往診と看護師との連携により、安心・安全な医療支援を行い、家族の安心感にもつなげ、利用者が安心して、楽しく穏やかに暮らせるよう、支援に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所に理念を掲げ、毎日、確認しながら、仕事をしている。	開設当時から「ゆっくりと、いっしょに、たのしく」を理念とし、日々、職員交代時に確認し合っている。自分の意志が表現できない利用者であっても、その人のペースに合わせ、サインを汲み取るよう心がけ、全職員で共有し支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており、徐々にではあるが、つながりは増えてきている。	事業所は、自治会に参加しており、地域の春祭りには、利用者の楽しみでもある「子供神輿」がまわってくる。住民のホーム見学に応じたり、地域の敬老会に招待されることもある。また、ホームの夏祭りやコンサートには、住民を招き地域交流を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に情報の発信は行っていないが、問い合わせや、見学等には、気軽に応えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練の見学など、行ったことの報告や取り組みを発表し、委員の方の意見をいただき、その後の運営に生かしている。	運営推進会議は、家族・行政・地域包括支援センター・住民代表などで平日に開催している。会議では、利用者の状況報告や資料の説明を行ない、参加者からの介護保険規定や運営についての質問に答えている。	運営推進会議に勉強会を重ねるなど、趣向と視点を変えたり、家族や地域住民が出席しやすい日程を工夫し、加えて、会議が行事の報告や現況説明だけでなく、活発な意見交流の場となるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっており、協力関係を築いている。	市主催の会議には、積極的に出席している。また、接遇や心のケアなど、様々な研修の情報を得て参加している。また、利用者の状態や地域の高齢者の情報を通し、良好な協力関係ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束をしない方針ですが、徘徊の方が入居されているため、玄関の中扉は、家族様の了解の元、施錠させてもらっているが、外からは、簡単に開けることができるようになっていない。	ベッドから転倒の恐れがある人は、ベッド柵を使用しなくても良いように、畳敷きの部屋にし、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は中扉のみ行っているが、出ていきたい人には職員が付き添い、見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、外部講習に参加したり、ミーティング時の議題にしたりして、職員意思の疎通を図っている。		

岐阜県 グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講習や研修会に参加したり、ミーティングでの議題にしたりし、意思の疎通を図っている。必要と思われる入居者には、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、全文を読み、説明後に、署名していただいている。分からないところは、後からでも、説明をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望は、出来る限り聞くようにしていますが、出来ない場合は、その理由等を説明し、納得してもらっている。	家族が訪問時した際に、意見や要望等の聞き取りを行なっている。食事の献立についての質問や、介助についての要望があり、その内容を全職員で共有し、ホームのサービスや運営に活かしている。離れて暮らす家族がより一層安心できるように、ホーム便りの作成を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや、引継ぎ等に参加し、職員の意見を聞き、運営に反映している。	毎日3回の申し送りを行い、職員は管理者に、勤務日や時間帯などの希望を、気軽に言える関係性ができている。管理者は、職員の表情や様子に気配りを行ない、少しでも働きやすくなるよう努め、利用者へのより良いサービス提供に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の制定や、各種手当の支給をしているが、安い給与でも離職率が低いのは、職員が、働きやすい職場環境になっているのだと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講習は、有料でも、有意義で、仕事に役に立つなら、参加できる職員に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に参加し、情報の交換したり、仲良くさせてもらっているGHもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り、本人に聞き取りをしています が、認知症の進行によっては、家族様からも情報を得て、安心できる関係を築けるように勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、家族様が困っていることや不安なことを聞き、解消できるよう努めている。また、要望も、出来る限り聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今一番必要なことを考え、その後の後の事も考えながら、出来ることを考えながら、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とは、家族のような関係を築けていると思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは、状況報告などで、常に連絡を取り合い、入居者との関係が途絶えることがないように努め、一緒に支えていける関係を築けて行けるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の設定をせず、いつ、誰が訪ねてきても良いようにしている。また、体調不良以外は、自由に外出できるように支援している。	知人や友人が自由に訪れ、居室で談話したり、家族と外出して、食事や喫茶店に行く利用者もある。また、差し入れの菓子を持って、訪問してくれる近所の人があり、入居しても新たな関係が生まれ、馴染みの関係になっていくよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、職員全員が、入居者が孤立することがないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談があれば、支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理な場合を除き、本人の希望を出来る限りに聞くようにしている。	利用者の意向や思いを確認しながら、日々の生活の中で利用者がやりたい事、出来る事を支援している。廊下のモップがけやほうきを使って掃除したりと、その人その人の体調や意向に沿って支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報だけでなく、後から聞いた情報も、職員全員で共有し、支援に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりが出来ることを、職員全員で共有し、日々に変化も、引継ぎで共有し、支援に生かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者、ケアマネ、管理者が検討し、作成したケアプランを、入居者、家族さまに確認していただいている。	変化のない場合は半年ごとに見直し、身体状況の変化や、腰痛や転倒などがあつた場合などは、随時見直すよう図っている。家族に要望を聞き、担当職員の意見と主治医と看護師の歩行やリハビリに関する意見を加え、介護計画作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に時系列に沿った記録をし、保管している。日々に変化は、引継ぎ時に情報提供し、職員間での情報提供している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者は、状態等が、それぞれ違うため、それぞれに合った支援が出来るように心がけている。		

岐阜県 グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に参加し、夏祭りなど、参加できる行事は、参加でき方の支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様の同意のもと、当ホームの主治医が、月2回の往診をしてもらっている。急変した場合は、職員が付き添い、状態に合わせ、病院への検査入院にも対応している。	契約時に、かかりつけ医は自由に選択できることを説明しており、ほぼ全員が協力医による月2回の往診と、毎週の訪問看護を受けている。急病やけがなど、緊急時には、職員が総合病院に同行する体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師に、週1回の訪問を受け、健康管理をもらい、その情報と、普段の情報を主治医に報告し、適切な受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院をした場合は、密に病院と連絡を取り、早期の退院が出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したときに施設として出来ることは、入居時に説明しており、それ以上のことは、主治医や病院と協議して決めている。	経口摂取が困難となった場合は、他施設へ移動または入院の選択肢を提示し、契約時に説明している。医療行為は、訪問看護で対応できる範囲までの支援としており、その時期が近づいた時は、家族の心情に配慮しながら話し合いを重ね、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を行っているが、地域の方との連携を築くことは、まだ出来ていない。	今までは火災、地震を想定した訓練であったが、水害なども想定した訓練を計画している。1階から2階への移動や、職員間での災害時の確認事項、家族への連絡方法なども合わせ、検討を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人に合った言葉かけを心がけている。	利用者のこれまでの生き方と誇りを尊重し、寄り添う介護を心がけている。難聴の人には、聴こえやすい方向から話しかけたり、帰宅願望がある人には、その思いを受け止めながら、日々のケアを行うよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	作業など、色々行ってもらっているが、無理強いせず、本人のやりたいことを行ってもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールは決まっているが、その人に合わせ、決まった時間ではなくても良いように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性で、できる方化粧をしてもらい、定期的に毛染めをしてもらっている。男性は、毎日、髭剃りをし、身だしなみを整えてもらっている。また、定期的に、美容師に訪問してもらい、髪の毛のカットをもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事をし、用意や片づけを、できる方には、手伝ってもらっている。	利用者は、野菜の筋むきやテーブル拭き、箸並べなどの準備を手伝っている。職員の手作りによる食事を、全員と一緒に「いただきます」と手をあわせて、味付けや調理法など、楽しく会話をしながら食している。行事食だけでなく、利用者の食べたい物を、日々の会話の中で拾い上げ、翌日の献立に活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量などを記録し、一人一人に合わせ、水分補給や補助食品の摂取をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、それぞれに合った口腔ケアを支援している。		

岐阜県 グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの方は、紙パンツへ、紙パンツの方は、布パンツへ移行できるように、排泄の自立に向け支援している。	職員は、利用者の排泄リズムを把握し、その人に合わせて声かけやトイレ誘導を行なっている。こまめな支援で、排泄の自立度がよくなった人が多い。夜間も安易にポータブルトイレを使用せず、トイレでの排泄が習慣となるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	状態を見ながら、個々に応じた支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の体制上、毎日の入浴は困難なため、入浴日を決め、職員が一人付き添い入浴してもらっている。	職員が付き添い、介助しながら、ゆっくりと入浴できるよう努めている。週2回の基本回数にこだわらず、柔軟な入浴支援を行ない、入りたくない人には、日にちや時間を変えたり、入浴担当の職員を変えるなど、個々の思いに沿った支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調等を見て、昼寝や運動をしてもらったりして、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者別に、1回ごとに分けてあり、職員には、薬の目的や副作用を理解して、服薬を支援している。体調が変化したときは、主治医に相談し、服薬の変更もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味のことはしてもらったり、お手伝いをしてもらったり、一人ひとり、思い思いに過ごしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人での外出は行ってなく、職員もしくは、家族様当の付き添いで外出は、自由に行っている。	利用者の状況の変化や加齢に伴い、日々の散歩や外出は現在行っていないが、家族との外出は自由であり、外食や買い物に出かけている。	徘徊による混乱があった経験から、戸外に出ることを控えているが、個々の利用者の状況や、その日の職員配置を考慮しながら、少しでも、利用者が季節の移ろいを感じたり、気分転換を図れるよう、外気浴や散歩の支援に期待したい。



岐阜県 グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方には、持ってもらいが、ほとんどの方は、必要なものは、こちらで立替払いをし、利用料と一緒に請求させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、自由にできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	節句などの飾りや、生け花教室で活けた生花などを飾り、季節感を出せるように心がけている。	共用のリビングはキッチンと面しており、食事のいい匂いが漂っている。快適な室温が保たれ、壁には利用者の作品が飾られている。生け花教室の花が季節を感じさせてくれ、これらの作品は、地域の銀行やスーパーに展示させよう、働きかけてゆく計画をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階は、スペースの関係上、居室以外で一人になることが出来ないため、必要なときは、和室を使っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの家具を持ってきてもらうのを前提で、入居してもらっているが、購入する方も多し。また、ベッドからの転落する危険のある方は、畳に変更している方も多し。	居室は、転倒によるケガを防ぐ為、畳敷きの部屋が多く、使い慣れた家具や日用品などが持ち込まれ、使い易く配置している。居室には、衣類や日用品などが十分収納できる押入れがあり、利用者と担当職員と一緒に掃除や整頓を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、バリアフリーになっており、車椅子ですべて動けるようになっている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103069		
法人名	株式会社 ライフ敷島		
事業所名	グループホーム みのりの家 (2階)		
所在地	岐阜県岐阜市野一色6丁目10番26号		
自己評価作成日	平成28年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	適いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所に理念を掲げ、毎日、確認しながら、仕事をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており、徐々にではあるが、つながりは増えてきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に情報の発信は行っていないが、問い合わせや、見学等には、気軽に応えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練の見学など、行ったことの報告や取り組みを発表し、委員の方の意見をいただき、その後の運営に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっており、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束をしない方針ですが、徘徊の方が入居されているため、玄関の中扉は、家族様の了解の元、施錠させてもらっているが、外からは、簡単に開けることができるようになっていく。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、外部講習に参加したり、ミーティング時の議題にしたりして、職員の意味の疎通を図っている。		

岐阜県 グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講習や研修会に参加したり、ミーティングでの議題にしたりし、意思の疎通を図っている。必要と思われる入居者には、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、全文を読み、説明後に、署名していただいている。分からないところは、後からでも、説明をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望は、出来る限り聞くようにしていますが、出来ない場合は、その理由等を説明し、納得してもらっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや、引継ぎ等に参加し、職員の意見を聞き、運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の制定や、各種手当の支給をしているが、安い給与でも離職率が低いのは、職員が、働きやすい職場環境になっているのだと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講習は、有料でも、有意義で、仕事に役に立つなら、参加できる職員に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に参加し、情報の交換したり、仲良くさせてもらっているGHもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り、本人に聞き取りをしています が、認知症の進行によっては、家族様からも情報を得て、安心できる関係を築けるように 勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、家族様が困っていることや不安な ことを聞き、解消できるよう努めている。ま た、要望も、出来る限り聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が 「その時」まず必要としている支援を見極め、 他のサービス利用も含めた対応に努めてい る	今一番必要なことを考え、その後の後の事も 考えながら、出来ることを考えながら、支援し ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築い ている	入居者とは、家族のような関係を築けてい ると思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共 に本人を支えていく関係を築いている	家族とは、状況報告などで、常に連絡を取り 合い、入居者との関係が途絶えることがない ように努め、一緒に支えていける関係を築け て行けるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に努 めている	面会時間の設定をせず、いつ、誰が訪ねて きても良いようにしている。また、体調不良以 外は、自由に外出できるように支援してい る。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、職員全員が、 入居者が孤立することがないように支援して いる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談があれば、支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理な場合を除き、本人の希望を出来る限り聞くようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報だけでなく、後から聞いた情報も、職員全員で共有し、支援に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりが出来ることを、職員全員で共有し、日々に変化も、引継ぎで共有し、支援に生かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者、ケアマネ、管理者が検討し、作成したケアプランを、入居者、家族さまに確認していただいている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に時系列に沿った記録をし、保管している。日々に変化は、引継ぎ時に情報提供し、職員間での情報提供している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者は、状態等が、それぞれ違うため、それぞれに合った支援が出来るように心がけている。		

岐阜県 グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に参加し、夏祭りなど、参加できる行事は、参加でき方の支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様の同意のもと、当ホームの主治医が、月2回の往診をしてもらっている。急変した場合は、職員が付き添い、状態に合わせ、病院への検査入院にも対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師に、週1回の訪問を受け、健康管理をしてもらい、その情報と、普段の情報を主治医に報告し、適切な受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院をした場合は、密に病院と連絡を取り、早期の退院が出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したときに施設として出来ることは、入居時に説明しており、それ以上のことは、主治医や病院と協議して決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を行っているが、地域の方との連携を築くことは、まだ出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人に合った言葉かけを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	作業など、色々行ってもらっているが、無理強いせず、本人のやりたいことを行ってもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールは決まっているが、その人に合わせ、決まった時間ではなくても良いように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性で、できる方化粧をしてもらい、定期的に毛染めをしてもらっている。男性は、毎日、髭剃りをし、身だしなみを整えてもらっている。また、定期的に、美容師に訪問してもらい、髪の毛のカットをもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事をし、用意や片づけを、できる方には、手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量などを記録し、一人一人に合わせ、水分補給や補助食品の摂取をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、それぞれに合った口腔ケアを支援している。		



岐阜県 グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの方は、紙パンツへ、紙パンツの方は、布パンツへ移行できるように、排泄の自立に向け支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	状態を見ながら、個々に応じた支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の体制上、毎日の入浴は困難なため、入浴日を決め、職員が一人付き添い入浴してもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調等を見て、昼寝や運動をしてもらったりして、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者別に、1回ごとに分けてあり、職員には、薬の目的や副作用を理解して、服薬を支援している。体調が変化したときは、主治医に相談し、服薬の変更もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味のことでしてもらったり、お手伝いをしてもらったり、一人ひとり、思い思いに過ごしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人での外出は行ってなく、職員もしくは、家族様当の付き添いで外出は、自由に行っている。		

岐阜県 グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方には、持ってもらいが、ほとんどの方は、必要なものは、こちらで立替払いをし、利用料と一緒に請求させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、自由にできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	節句などの飾りや、生け花教室で活けた生花などを飾り、季節感を出せるように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階と違い、テレビ前のソファなど、一人になれる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの家具を持ってきてもらうのを前提で、入居してもらっているが、購入する方も多い。また、ベットからの転落する危険のある方は、畳に変更している方も多い。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、バリアフリーになっており、車椅子ですべて動けるようになっている。		